

古文 練習問題 ② 『竹取物語』

次の『竹取物語』の一節を読んで、あとの問いに答えなさい。

今は昔、竹取の翁おきなといふものありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、(1)よ
ろづのことに使ひけり。名をば、さかきの造みやつことなむいひける。その竹のなかに、
もと光る竹なむ一筋ありける。あやしがりて、寄りて見るに、筒の中光りたり。
それを見れば、三寸ばかりなる人、いと(2)うつくしうてゐたり。翁(3)いふや
う、われ朝ごと夕ごとに見る竹の中に(4)おはするにて、知りぬ。子となりたま
ふべき人なめり、とて、手にうち入れて家へ持ちて来ぬ。

*三寸 一寸は約三センチ。

一、(1)～(3)を現代かなづかいになおしなさい。

- | | | | |
|-----|-----|-----|-----|
| (1) | () | (2) | () |
| (3) | () | (4) | () |

二、二重線「あやしがりて」の意味ともっとも適切なものを次から一つ選びなさい。

- ① うれしく思つて
- ② 恐ろしく思つて
- ③ 疑わしく思つて
- ④ 不思議に思つて

答え

- 一、(1)よろず (2) うつくしゅう (3) いうよう (4) おわするにて
二、④

解説

古典の言葉 古語(一)

あはれなり しみじみとおもむき深い。

いと たいへん。とても。非常に。

いみじ はなはだしい。りっぱに。大変だ。

うつくし かわいらしい

おぼゆ 思われる。

かたし むずかしい

かなし いとおしい。心をひかれる。

きこゆ 申し上げる。

げに 本当に。まったく。なるほど。

さらなり 言うまでもない。